

文京学院大学 2018 年度入学式

2018 年 4 月 2 日 東京ドームシティホールにて

## 学長告辞

文京学院大学 2018 年度入学の皆さん、ご入学おめでとうございます。

保護者の皆様、またご家族の皆様がたにおかれましてもさぞお喜びのことかと存じます。

本日は大学院研究科ならびに各学部に入学者された総勢 1,348 名の新入生のかたがたが一堂に会して、この式典に参列されております。これだけ多くの皆さんをここに迎えられたことは、私どもにとってこの上ない喜びであります。文京学院大学の学長として、教職員を代表いたしまして、心より歓迎の意を表します。

皆さんが入学されたこの大学は、今から 94 年前に創立者、島田依史子先生が「島田裁縫伝習所」として開学されたのが始まりです。その後、短期大学、文京女子大学をへて、今日ある大学の姿へと変遷してまいりました。創立当時は女子の自立を目指して教育を始めたこともあり「自立」と他者を思いやることにちの「共生」を教育の理念とされました。この理念は時代を超え、国を超えて普遍的なものであるところから今も本学の建学の精神として脈々として受け継がれているのです。

私たちがこの建学の精神を大切にしている理由について少し述べたいと思います。

ここでの「自立」とは精神面、実生活面での自立を達成しようとする態度を指します。このことは自己形成を図るとともに自分らしく生きてゆくために必要なスキルをしっかりと身に着けること、すなわち、社会のなかで生かせる専門的知識や技術・技能を修得することに繋がります。

一方、「共生」の概念は分野ごとにそれぞれの見解があり、はばひろい内容を含んだものになっています。

ここでは共生について簡潔にお伝えすることにしたいと思います。

皆さんも自身の経験からお分かりのように、自分の考え通りにゆかないことの多い社会ですが、その社会が総体としてそれなりに形を成しているのは、それを支えている人たちが社会の中で「共生」を実践しているからにほかなりません。「共生」の思想がなければ、いたるところで利害関係をめぐる衝突が頻発し、社会秩序を安定的に維持してゆくことが困難になります。コミュニケーションによって相互に相手の立場や気持ちを理解し、譲るべきところは譲り、主張すべきところは主張しあいながら互いに協調しつつ双方の目的を達成してゆく。そのような関係を尊重する生き方がいわゆる「共生」の生き方につながると思います。

本学の建学の精神は「自立と共生」ですが、本学ではほかに、「誠実」「勤勉」「仁愛」という 3 つの徳目を校訓に定めています。「自立」のためにスキルを磨くには「勤勉」でなければなりません。また「共生」するためには相手に対して「誠実」でなければならぬし、「仁愛」の心、即ち他者を思いやる心をもっていなければ「共生」は実践できません。この「自立」と「共生」の精神とともに、校訓である「誠実」「勤勉」「仁愛」を併せて心のうちにとどめておいて欲しいと思います。

ご存知のようにいま社会は急速にグローバル化が進んでいます。皆さんが本学を卒業するころには、異

人種間、異文化間交流はますます盛んになり、好むと好まざるとにかかわらずこのグローバル社会の中に身を置くことになるでしょう。国際共通言語とも言ってもよい英語でのコミュニケーション力をつけることと、国境を越えてさまざまな局面で世界と繋がるグローバル環境の中に生きていることを直接に知ることは、現代においては避けて通ることはできません。皆さんには在学中に、短期、長期を問わず少なくとも一度は、海外留学を体験してきてほしいと思っています。本学には国際交流センターがあり、さまざまな留学プログラムと奨学金も用意されています。カリキュラムがタイトな学部であっても、夏季休暇、春季休暇を利用しての留学体験もできるはずです。後ほどカザフスタン共和国のイエルラン・パウダルベック・コジャタエフ特命全権大使よりご祝辞をいただきますが、この3月には第3回「新・文明の旅」プログラムで17名の学生をカザフスタン、ウズベキスタンに派遣しております。その成果を受講する機会もあります。言語や文化の異なる異文化圏でグローバルな体験をすることは、今まで述べてきた「自立と共生」の実践にほかなりません。できるだけ多くの学生の皆さんがこうした実践体験にチャレンジされることを期待しています。

次に大学教育について触れておきたいと思います。

大学院に入学された皆さんにあっては、大学院の使命と存在価値を知っていただき、学業、研究に専念していただきたいと思います。2年間の在学期間中に自らの研究テーマに係る特論科目を履修し専門知識を深めてゆくとともに、課題とした研究内容をまとめ修士論文としなければなりません。この工程は簡単なものではないと思います。特に社会人として働きながら修士課程で学ばれる院生の方は本当に大変な道のりだと思いますが、これを絶好の機会とらえて、研鑽をつまめ、ぜひ所期の目標を達成して下さい。

大学に入学された皆さんの場合は、まず高等学校の授業と大学の授業の相違を理解していただきたいと思います。授業時間や講義形態、勉学の方法、成績評価法などがいままでとは異なりますので、最初の授業で戸惑うことのないようにしてください。

これらのことに関しては、これから予定されているオリエンテーションや初年次教育のなかで詳しい説明があると思いますから、その中で大学生活を送る上でのルールをよく把握していただきたいと思います。

大学では比較的自由な時間があるので、ボランティア活動、サークル活動、アルバイトなどに時間を割り当てることができます。このような活動は人間形成や人間関係の構築、あるいは社会人として成長してゆくための体験を積むうえで大変重要ではありますが、基本的に大学というところは学士に相応しい学識と技術を身につけるための場所であるということをお忘れしないでほしいと思います。

学士に相応しい学識と技術というのは、各学部における専門分野を究めるだけでなく、21世紀の人々に適した文化、社会、自然、歴史、倫理などについての広範な知識と理解力を有し、あらゆる側面において論理的思考を以って自ら問題解決を図ることのできる能力のことを意味します。4年間でこれだけの学識を身につけるのは少しきついと感ずるかもしれませんが、日本社会や国際社会は大学生にそれだけの事を期待しているということを知っておいてください。最近の大学における成績評価は昔と比べて格段に厳しくなっています。国際的に通用する学位を授与するために厳しい成績評価が必要とされているからです。その為にも皆さんは履修した受講科目については単位取得だけを目当てにするのではなく、様々な講義から得られた知識を自分の頭の中で独自に体系化し、必要に応じてそれらを積極的に活用あるいは応用してゆく主体的な学習方法を身につけていただきたいと思います。大学1年の時にしっかりとした学びかたを身につけることで、卒業までの期間を中途脱落することなく学び続ける事が出来る筈です。

皆さんにはこのような大学生としての本分を胸にこれからのキャンパスライフを大いに楽しんで頂きたいと思っています。

さて、お手元には会津八一先生の「学規」が配布されていると思います。

本学園の第2代理事長でいらした島田和幸先生は、生前この「学規」を学生たちにしめされて、機会あるごとに学規に書かれた生き方を繰り返し説いてこられました。この学規に盛られた内容は本学の建学の精神と校訓に通ずるところがあるのです。会津八一先生は、日本の歌人・美術史家・書家として活躍されたかたですが、早稲田大学文学部教授としても活躍され多くのお弟子さんを育成されました。

お配りした学規は、大正3年に書かれたもので、4か条の人生訓を記したものであります。これは当時、彼の家に下宿していた受験生のために作られたものですが、後に彼の門下生に向けて語られた言葉ともなり、また八一自身の生活指針ともなった言葉でもあります。

- 一、ふかくこの生を愛すべし
- 一、かへりみて己を知るべし
- 一、学芸を以って性を養うべし
- 一、日々新面目あるべし

この4か条の内容をよく読んで深く味わってみてください。皆さん一人ひとりが本学の建学の精神とこの学規をともに深く理解し、これらを自己の世界観構築のための一助とされることを願っています。

最後に皆さんに申し上げたいのは、今後2年間あるいは4年間という期限の中で学位や資格を取得できるよう、教職員全員で在学中の皆さんを支援していきますので、皆さんもがんばってそれぞれがもつ目標を強い意志を以って達成して行ってほしいということでもあります。ここにいる皆さんが修業年限を終えて、そろって学位記を手にする日を願い学長の挨拶といたします。

平成30年4月2日

文京学院大学

学長 工藤 秀機